

日本語教材研究

日本語教材研究

2単位 (選択) 2年 (後期)

大石 寧子・教授/国際センター

【授業目的】 実際の教室等で学生を対象に日本語教育の実習を行う。効果的な教授法やクラス運営を体験的に学ぶ。

【授業概要】 日本語教育の教材研究を含めた演習

【キーワード】 教材, リソース, プロジェクトワーク, 異文化理解, 評価

【先行科目】 『日本語教授法 I』 (1.0), 『日本語教育方法論 I』 (1.0), 『日本語教育方法論 II』 (1.0), 『日本語教育方法論 I』 (1.0), 『日本語教育方法論 II』 (1.0)

【関連科目】 [関連科目]

【履修上の注意】 学生のレベルや人数などの状況により、授業内容や計画が変更される場合があります。

【到達目標】 既にあるいは現在学んでいる理論や教授法などを復習しながら、どのように日本語の授業を組み立てまた運営していくかを検討する。実際に教室で日本語を教える経験を通して、日本語教師に必要な知識や経験を得る。授業の前に練習を行い、授業後にクラスを振り返り、効果的な授業やクラス運営について考える。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 教案の作成 (1)
3. 教案の作成 (2)
4. 教材研究&実習計画
5. 日本語教育実習 1
6. 日本語教育実習 2
7. 日本語教育実習 3
8. 日本語教育実習 4
9. 日本語教育実習 5
10. 日本語教育実習 6
11. 日本語教育実習 7
12. 日本語教育実習 8
13. 日本語教育実習 9
14. 日本語教育実習 10
15. 日本語教育実習 11
16. 振り返りとまとめ

【成績評価】 本授業の成績評価は、出席・授業への取り組み、教案の作成、実習の内容などを総合して行う。

【再試験】 無

【教科書】 授業中適宜提示する。

【参考書】 [参考資料]

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218925>

【連絡先】

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp)

Target 実際の教室等で学生を対象に日本語教育の実習を行う。効果的な教授法やクラス運営を体験的に学ぶ。

Outline 日本語教育の教材研究を含めた演習

Keyword 教材, リソース, プロジェクトワーク, 異文化理解, 評価

Fundamental Lecture “日本語教授法 I”(1.0), “日本語教育方法論 I”(1.0), “日本語教育方法論 I”(1.0), “日本語教育方法論 II”(1.0)

Relational Lecture [関連科目]

Notice 学生のレベルや人数などの状況により、授業内容や計画が変更される場合があります。

Goal 既にあるいは現在学んでいる理論や教授法などを復習しながら、どのように日本語の授業を組み立てまた運営していくかを検討する。実際に教室で日本語を教える経験を通して、日本語教師に必要な知識や経験を得る。授業の前に練習を行い、授業後にクラスを振り返り、効果的な授業やクラス運営について考える。

Schedule

1. ガイダンス
2. 教案の作成 (1)
3. 教案の作成 (2)
4. 教材研究&実習計画
5. 日本語教育実習 1
6. 日本語教育実習 2
7. 日本語教育実習 3
8. 日本語教育実習 4
9. 日本語教育実習 5
10. 日本語教育実習 6
11. 日本語教育実習 7
12. 日本語教育実習 8
13. 日本語教育実習 9
14. 日本語教育実習 10
15. 日本語教育実習 11
16. 振り返りとまとめ

Evaluation Criteria 本授業の成績評価は、出席・授業への取り組み、教案の作成、実習の内容などを総合して行う。

Re-evaluation 無

Textbook 授業中適宜提示する。

Reference [参考資料]

Contents <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218925>

Contact

⇒ 大石寧子(国際センター 088-656-9875 oishi@isc.tokushima-u.ac.jp)